

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第564号 令和8年7月・8月



『鎌倉長谷寺の紫陽花』 古川 朋靖

目

次

	頁		頁
1) 専門医に学ぶ	大久保具明 … 2	6) 理事会報告	広報部 … 8
2) 学術講演会予定	学術部 … 4	7) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 11
3) 保健所だより	西多摩保健所 … 5	8) お知らせ	事務局 … 19
4) 広報だより	馬場一徳 … 6	9) 表紙のことば	古川朋靖 … 20
5) 連載企画	近藤之暢 … 7	10) あとがき	中野和広 … 20

専門医に学ぶ 第179回

大動脈弁狭窄症

公立阿伎留医療センター 循環器内科 大久保具明

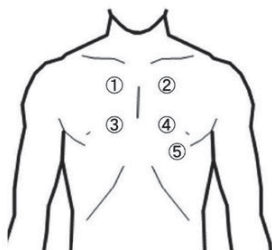
1. はじめに

まずは2025年に行われた第119回医師国家試験で下記問題が出されています。また過去には大動脈弁狭窄症の予後を規定するについて選ぶ問題も出ています。

119-B9

胸部の模式図を示す。
大動脈弁狭窄症で聴取される
収縮期雑音の最強点はどれか。

- a. ①
- b. ②
- c. ③
- d. ④
- e. ⑤



答えは、胸骨第2肋間右縁なので、a (=①) となります。聴診器をあてることで発見しやすい高齢者の疾患の1つです。

2. 症例

80歳代 男性

【主訴】BNP上昇、大動脈弁狭窄症フォローアップ

【現病歴】関節リウマチや高脂血症等のため近医に通院している。検体検査でNT-pro BNPが上昇していたため、精査目的で受診となった。

【既往歴】結核、脊柱管狭窄症

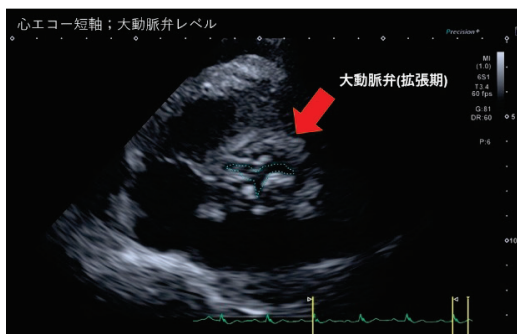
【生活歴】喫煙なし、飲酒；機会飲酒

【アレルギー】特記なし

【現症】胸部；頸部に放散する、胸骨第2肋間右縁を最強点とする駆出性収縮期雑音（Levine IV/VI）を聴取、下腿浮腫なし、

【検査結果】

検体検査；BNP 181.5pg/dL(正常値：0.0-18.4)、
血糖 146mg/dl、HbA1c 6.6%、他特記事項なし
心電図：完全右脚ブロック、I度房室ブロック
胸部X線：CTR=49%、陳旧性肺結核
心臓超音波検査：大動脈弁狭窄（Vmax:4.18m/秒、mPG:42mmHg, AVA:0.66cm², AVAI:0.46）、
EF：54%



【経過】心臓超音波検査結果より、大動脈弁狭窄症の進展を認め、重症大動脈弁狭窄症と診断した。症状については、脊柱管狭窄症に加え、神経因性膀胱のため膀胱留置カテーテル/ 畜尿袋留置中で日常生活に制限がかかっている状況であり、症状を自覚していない可能性が考えられた。BNP が上昇していることも加味して患者および家族に説明を行い、経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）及び外科的大動脈弁置換術（SAVR）の両方の選択肢のある心臓血管外科に紹介とした。

3. まとめ

①病因 / 疫学

大動脈弁狭窄症（AS: Aortic valve Stenosis）の主たる病因は、本邦では、他の先進国と同様、加齢に伴う大動脈弁尖の変性に基づくものの割合が多く、他、今は少なくなったリウマチ性や先天性（二尖弁や一尖弁など）がある。

AS の頻度は加齢とともに上昇し、70 歳未満における重症 AS は 1% 未満であるのに対し、80 歳以上では 7% 前後との報告もある。AS 患者の自然歴としては、1968 年に出された論文をもとに、心不全、失神や胸痛などの自覚症状が出現すると平均余命は 2～3 年というデータが有名である。突然死のリスクは年 1% 程度とされ、無症状のまま、大動脈弁置換術（AVR; aortic valve replacement）を受けることなく経過をみることでできた場合の 5 年生存率は 93% との報告もある。しかし、弁狭窄の程度が強い患者、短期間で進行している患者や左室収縮能が低下傾向にある患者ではイベント発生率が高いとされている。

②診断

AS に特異的な症状はない。AS に伴う症状は、労作時息切れなどの心不全症状、胸痛や失神などである。しかし患者によっては無意識に活動を制限していることが少なくない。「無症候性」と誤って判断することになるので注意を有する。身体所見では、頸部に放散する収縮期の駆出性雑音を聴取することが特徴的である。AS が進行すると左室機能障害をきたし一回拍出量が低下すると収縮期雑音は小さくなるので、収縮期雑音の強弱で病態の重症度を判断するのは誤りである。他には、II 音の奇異性分裂、脈波の立ち上がりが遅い遅脈や鶏冠状の頸動脈波などがある。AS の診断と重症度評価は主に心エコー図検査で行う。心エコー検査による AS 重症度評価を図 3 に示す。

図 心エコー図検査による大動脈弁狭窄重症度評価

	弁硬化	軽症	中等症	重症	超重症
$V_{max}(m/秒)$	≤ 2.5	2.6-2.9	3.0-3.9	≥ 4.0	≥ 5.0
$mPG(mmHg)$	-	< 20	20-39	≥ 40	≥ 60
$AVA(cm^2)$	-	> 1.5	1.0-1.5	< 1.0	< 0.6
$AVA_I(cm^2/m^2)$	-	> 0.85	0.60-0.85	< 0.6	-
Velocity ratio	-	> 0.50	0.25-0.50	< 0.25	-

AVA_I:AVA index, V_{max} :大動脈弁最大血流速度、Velocity ratio:左室流出路血流速と弁通過血流速の比

他にも、(ドブタミン) 負荷心エコー図、心臓カテーテル検査、CT や MRI などが用いられる。

③フォローアップ

AS の至適フォローアップに関するエビデンスはないが、欧米のガイドラインに準じ、通常重症であれば6か月から1年毎、中等症ASであれば1年から2年毎、軽症ASであれば3年から5年毎のフォローアップを推奨する。心エコー図で評価し、可能な限りBNPを測定することが望ましい。

④治療

(1) 内科的治療

AS に対する直接的な内科治療はないが、高血圧を合併する場合はその治療が重要である。2025年に発刊された高血圧ガイドラインでは、降圧目標を診察室血圧は130/80mmHg未満、家庭血圧を125/75mmHg未満としている。弁膜症を有する高血圧患者の治療において、ACE阻害薬やARB(ARNIを含む)は血圧を下げ心臓の後負荷を軽減するだけでなく、心筋リモデリングの進行を抑制することで、高血圧と弁膜症の管理に有効であると考えられている。病態に応じて、Ca拮抗薬や利尿薬も用いられる。血圧コントロールには、過度な血圧低下を招かないように、降圧薬を低用量から開始し、漸増する必要がある。

(2) 外科的治療とカテーテル治療

重症ASと診断され、症状のある症例に対しては、臨床的手術禁忌をもつ場合や予後予測が1年未満でなければ、手術が推奨される。狭心症、呼吸困難、失神を呈するAS症例の生命予後は不良であり、手術介入により症状や生命予後、運動耐容能の改善が見込まれる。手術には、従来からの外科的大動脈弁置換術(SAVR;surgical aortic valve replacement)と、2002年にフランスで第一例が施行され、2013年にわが国でも保険適用された経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI, transcatheter aortic valve implantation)がある。各種臨床試験でTAVIのSAVRに対する非劣勢が示されてきたことにより、当初適応は外科的手術が不可能な患者、もしくは高リスク患者が対象であったものが、2021年4月から低リスク症例に対しても承認されるようになった。

◇学術講演会予定

令和 8. 6. 18

開催日	開始～終了 時間	会 場	単 位数	CC	集会名称・演題	講師(役職・氏名)
7/30 (木)	19:00 ～ 20:15	Web 配信	1.0	23	学術講演会 『肥満症治療 Web Seminar』 【基調講演】 演題:「肥満症治療における当院 の取り組み」 【特別講演】 演題:「肥満症治療の“これまで” と“これから”を循環器医の視点 で考える」	座長:市立青梅総合医療センター 循環器内科 部長 小野 裕一 先生 演者:市立青梅総合医療センター 内分泌糖尿病内科 副部長 大島 淳 先生 演者:岡山大学学術研究院医歯薬学域 循環器内科学 教授 湯浅 慎介 先生
10/21 (水)	19:30 ～ 20:30	Web 配信 又は、 市立青梅 総合医療 センター	1.0		学術講演会 「第24回西多摩高血圧カンファレン ス」 <特別講演> 「演題未定(テーマ高血圧)」 <パネルディスカッション> 「テーマ高血圧」	座長:梅郷診療所 院長 江本 浩 先生 演者:埼玉医科大学総合医療センター 心臓内科 教授 重城 健太郎 先生 パネリスト:野本医院 院長 野本 英嗣 先生他

保健所だより

保健師活動コラム Vol.12
精神科看護師から保健師になって
～1年を通して学んだこと～

私は病院の精神科病棟で看護師として勤務した後、東京都の保健所で保健師として働くようになりました。

臨床での経験は現在の業務にも活かせることが多くありますが、地域に出てからは、それまで行っていた看護とは異なる難しさに直面しました。

病院にいた頃は、治療の枠組みの中で、継続的に治療を受ける患者さんの病状観察や日々の生活を、看護師として支援していました。

もちろん一人ひとりの個別性は大切にしていますが、「この方向で関わっていく」という治療方針や看護目標が共有されており、その中で患者対応を行うことが当たり前であると感じていましたが、保健所での業務においては、その「当たり前」が通用せず、入都してからは悩みながら業務に当たってきました。

地域で生活している精神疾患のある方々は、医療につながっていないこともあれば、つながっていても継続が難しいこともあります。

生活状況や家族関係、経済的な背景などが複雑に絡み合い、「何を優先すべきか」「どこから関わるべきか」が明確に分かるとは限らず、答えがないと感じることも多く、「こうすればよくなるのではないか」と自分の中で描いていた支援の道筋が、実際の現場では通用しない場面もあります。

医療につなげるが必要だと感じて、ご本人がそれを望まなかったり、家族が家庭の中で抱え込み、状況が膠着したりしてしまうこともありましたが、そのような場面に向き合う中で、「こちらが考える正しさ」や「こうすることが本人のためになるだろう」という思いだけでは支援は進まないことを痛感しました。

地域での支援においては、明確なゴールの設定が難しい場合も多くあります。

自分の関わりがどの程度その方の健康の改善に役立っているのかはすぐに見えるものではなく、むしろ変化が見えない中で関わり続けること自体に迷いや不安を感じることもあります。

病院であれば、症状の変化や生活の改善などにより、比較的分かりやすい形で手ごたえを感じることができましたが、地域では継続して関わってもなかなか手ごたえを感じられず、このままでよいのだろうかと悩みながら関わっています。

それでも関わりを続ける中で、少しずつ見えてきたこともあります。

例えば、すぐに受診には至らなかったとしても、定期的に顔を合わせる関係が保たれ、細やかな変化に気づけることや、短い会話の中でご本人の思いが表現されることなど、わずかではありますが、意味のある変化を感じ取れるようになってきました。

このような一見小さな出来事が、次の支援につながる大切な契機になるのだと日々感じています。

支援にあたっては、事前に準備を整えることも大切ですが、それだけではなく、その場の状況に応じて考え対応していくことが、地域における支援では重要であると実感しています。

保健所では、医療だけでなく福祉や行政など多くの機関と関わります。

その中で、単一機関だけでは十分に支えきれない生活上の課題も多く、複雑化しているケースがあることを日々実感しており、地域の関係機関の方々との連携や協働がとても大切だと感じています。

私自身も少しずつ、自分自身が果たすべき役割や、保健所保健師として担う役割が見えてきた一方で、自分に足りない点や改善すべき点も日々感じています。

これからも、都民の方や地域に少しでも貢献できるよう、日々精進していきたいと考えています。



保健対策課 地域保健第一担当保健師

広報だより

ばば子どもクリニック 馬場 一徳

私事で恐縮ですが、2年前から「第35回日本外来小児科学会学術集会」という学会の運営委員という大役(?)を仰せつかっています。そのため、西多摩医師会の広報委員会をお休みすることも多く、先生方にはご迷惑をおかけしております。地方の研究会の運営すらやったことのない人がいきなりこんな大舞台の運営委員をやるなんて、レベル1でいきなりラスボスに立ち向かうような気持ちで一杯です。今回は、学会の運営の裏側なんてものを少しお話したいと思います。

学会自体は今年の8月22・23日に札幌で行われるのですが、実際の運営委員会はその2年前から動き始めます。最初は学会の会場選定から始まり、その後大きな趣意の決定、それに基づいた企画の立案を行います。企画が決まると、講演の依頼、それに併せて会場の割り振りと時間の設定を行い、会場の準備としては一段落着くのですが、その間に一般演題の募集と査読、発表の割り振りの他、ランチョンセミナーの企業への依頼、記念品の作成、事前のPRなど、本当に様々な仕事がたくさんあります。

運営委員は30名程度で、北は北海道から西は大阪まで全国各地に散らばっております。月1回の会議に全員が集まるのは不可能なので、ウェブ会議で行っていますが、それも毎回夜遅くまで会議をしており、22時近くまで会議をしているのも当たり前になっています。その会議だけでなく、当日も様々な仕事があり、皆様が当たり前に使っている受付やクロークの運営、会場運営、専門医認定書の配布の他、託児施設の運営まで、まだ始まっていませんが超多忙の予感がしています。

運営委員を引き受けてみて、未だにレベル1でラスボスに挑んでいる感が否めない部分もありますが、これだけ働くからには、参加される皆様楽しんでもらえる学会にしたい、という気持ちもあります。自分が出した企画が少しでも成功すればうれしいですし、それで皆様が少しでも勉強してくれれば、少しでも参加したためになった、と思ってもらえたら、レベル1の運営委員でも引き受けた甲斐があったと思います。

この原稿の締め切りからあと2か月は、それこそ「work hard」になりますが、せっかく頂いた機会なので一生懸命頑張りたいと思います。

連載企画

天 草

近藤医院 近藤 之暢



昨年の夏休みを利用して天草を訪れました。

早朝に羽田から熊本まで行きレンタカーを利用して九州自動車道・天草五橋を経て天草に入りました。早朝に出かけたのは天草イルカウォッチングに乗船する目的で早々に現地に着きたかったからです。遭遇率9割以上とのことで楽しみにしていましたが少し不安だったのは知床のような事故は起きないか？ということです。複数のイルカウォッチングの会社は同時刻に出港しほぼ同じ航路で航行、何らかの事故時には相互に救助できるような体制をとっているようでした。

出港して20分ほどで多くのイルカと出会えました。水族館のような派手なジャンプなどはしませんが、親子連れなどが船周囲を覆いつくすほどに近くを泳ぎ触れそうなくらいでした。約1時間のイルカウォッチングは十分すぎるくらいでした。

初日は朝が早かったので早々に宿に向かいました。この日は石山離宮『五足のくつ』という宿に宿泊しました。

ご存じの方も多いと思いますが『五足のくつ』とは明治40年与謝野鉄幹とその門弟4人（北原白秋・平野万里・吉井勇・木下杢太郎）が約一ヶ月にわたる九州旅行の紀行文を寄せたことからついたものです。このとき東京の出版社を出発するため集合した5人が革靴をはいて出かけたことからついたものです。

翌日は世界文化遺産の崎津集落・崎津教会、大江教会を訪ねました。潜伏キリシタン（子供のころには隠れキリシタンと教わったと思います）の地がなぜ世界文化遺産になったのか崎津集落の資料館の方に訪ねたところ、ヨーロッパのキリスト教徒達に存在を知られることがなかったキリシタン達を発見できたことが重要であったからとのことです。（集落の人たち自身が信仰の戦いを続けてきたことが重要という訳ではないようです）

2日目は天草五橋近くの『天ノ寂』という宿に宿泊しました。落ち着いた宿でたまたま数組ほどの宿泊者しかおらずゆっくりと過ごせました。夕食をいただきながら夕日が海に沈んでいくのが見え絶景でした。

翌日は戻るような道筋になりましたが棚底港というところから定期船に乗り『天草市立御所浦恐竜の島博物館』を訪ねました。ここは白亜紀の化石を中心として展示され、日本最古の大型哺乳類『コリフォドン』という化石が見つかっています。他にも多くの年代の化石が見つかりており展示されています。（寿司屋で昼食をとっていたときに、「こんな田舎にどこから何しにきたの？」と聞かれました。「東京から恐竜博物館に来ました」と応えたところかなりびっくりされました。おそらく恐竜の化石が見つかるのは普通のことで、なにも珍しいことではないと思っているのかもしれませんが。確かに博物館は立派ですが閑散としていました。この日は、熊本市内まで行き宿泊、夕食に熊本名物・太平燕（タイピーエン）をいただきました。

最終日はせっかく九州まできたのだから少し足を伸ばして、高速道路を利用し佐賀県唐津市呼子町まで北上しました。自分はイカが好物でなんとしてでも一度は食べてみたいと思っていました。2時間ほど待つて入店「いか活造り」を注文、透明なイカは今までのイカのイメージを変えました。味もすばらしく甘みもあって絶品でした。げそは天ぷらにしてくれこれも柔らかく絶品でした。それからというものどこでイカを食べても物足りなくなってしまうています。おいしいものを知ってしまったために不幸になってしまいました。今回の旅行では天草よりも印象に残ったできごとでした。

理事会報告

★ Information

4月定例理事会

令和8年4月28日(火)

西多摩医師会館

(出席者：進藤(幸)・古川・進藤(晃)・井上・三ツ汐・湯田・野口・神應・松本・松村・高橋・近藤・宮城)

報告事項

1 都医地区医師会長連絡協議会報告

資料により、4/17に開催された標記協議会の内容・都医からの伝達事項等について報告がされた。

2 各部報告

総務部(医療保険委員会)

4/16、4/17に開催した診療報酬点数改定講習会について状況が報告された。

3 地区会報告

特になし

報告承認事項

1 入退会会員・会員異動について

資料により、準会員1名の入会申請が紹介・報告され承認された。

また、準会員2名の退会が報告された。

協議事項

1 西多摩医師会共催名義の使用について(申請)

資料により、西多摩広域行政圏協議会からの上記申請について説明され、共催名義の使用許可が可決承認された。

2 「2025年度西多摩医師会事業報告書(案)」について

前回理事会にて標記(案)の内容等の確認が要請されていたが、一部追加されたほか意見等もなく、案の通り可決承認された。

5月定例理事会

令和8年5月12日(火)

西多摩医師会館

(出席者：進藤(幸)・古川・進藤(晃)・井上・三ツ汐・湯田・野口・神應・松本・松村・近藤・宮城)

報告事項

1 会長報告

令和8年度フレイルサポート医地域連携支援事業(新規補助金事業)について標記の東京

都補助金事業の概要が説明された。

2 各部報告

特になし

3 地区会報告

特になし

4 その他報告

特になし

報告承認事項

1 入退会会員・会員異動について

資料により、準会員 4 名の入会申請が紹介・報告され承認された。
また、準会員 1 名の退会が報告された。

2 定例理事会開催回数について

定例理事会開催を月 1 回に変更するとの執行部決定事項が報告され承認された。
今期 7 月以降の開催予定は、毎月 1 回第 2 火曜日、1 月は第 4 火曜日、8 月休会とする。

協議事項

1 理事・監事・医道審議会委員候補者の選出について

役員改選に伴う告示により、理事 11 名・監事 2 名・医道審議会委員 7 名の候補者届けが説明され、選出について協議された。いずれも規定定数内の候補者数であり、資料の候補者を選出すること及び理事総数 11 名とすることが決議された。

5月定例理事会

令和8年5月26日(火)

西多摩医師会館

(出席者：進藤（幸）・古川・進藤（晃）・井上・三ツ汐・湯田・野口・神應・松本・松村・高橋・近藤・宮城）

報告事項

1 都医地区医師会長連絡協議会報告

資料により、5/15 に開催された標記協議会の内容・都医からの伝達事項等について報告がされた。

2 各部報告

特になし

3 地区会報告

- ・青梅市 5/22 理事会開催
- ・あきる野市 5/15 役員会開催 5/18 総会開催

4 その他報告

2025 年事業年度に係る監事監査報告について

5/20 に実施した 2025 事業年度の監事監査について監査報告書（写）により監査概要・結果等が報告された。

報告承認事項

1 入退会会員・会員異動について

資料により、準会員 2 名の入会申請が紹介・報告され承認された。

また、正会員 1 名と準会員 5 名の退会、及び、異動届 1 件が報告された。

2 2025 年度「西多摩医師会決算報告書」について

標記報告書の資産・負債および収支の内容・状況等が説明・報告され承認された。

3 2025 年度「公益目的支出計画実施報告書」（計数）について

資料により 2025 年度決算に基づく標記報告書の計数等につき説明・報告され承認された。

4 2025 年度「西多摩医師会互助会会計収支計算書」について

資料により標記計算書の内容・計数等が説明・報告され承認された。

5 2026 年度定時社員総会の開催案内・資料等の発信について

資料により 2026 年度定時社員総会に係る会員への開催案内・送付資料等について説明され、発信が承認された。

協議事項

特になし

6月定例理事会

令和8年6月9日（火）

西多摩医師会館

（出席者：進藤（幸）・古川・進藤（晃）・井上・三ツ汐・湯田・野口・神應・松本・松村・高橋・近藤・宮城）

報告事項

1 各部報告

総務部（福利厚生担当）

令和 8 年度西多摩医師会『納涼の夕べ』について、資料により開催概要と開催案内を発信したことが報告された。

公衆衛生部

資料により「男性 9 価 HPV ワクチンの接種機会に関する現状共有と電子署名への協力の依頼について（案）」について説明され、会員に協力依頼の通知をすることが報告された。

総務部

6/23 日開催される定時社員総会の出席回答、委任状の提出状況について報告され、及び、各地区の会員に回答の返信を促すよう理事に要請された。

2 地区会報告

- ・福生市 6/2 日 総会開催
- 6/10 日 福生市緊急時救護所会議開催予定

3 その他

資料により、東京都医師会通知（再通知）「東京都医師会会員向けアプリケーション作成に関するアンケートご協力をお願い」について、アンケート協力が役員に向けて要請された。

報告承認事項

1 入退会会員・会員異動について

資料により、正会員 2 名と準会員 12 名の入会申請が紹介・報告され承認された。
また、正会員 4 名と準会員 14 名の退会、及び、2 件の異動届が報告された。

協議事項

1 令和 8 年度糖尿病医療連携推進事業の委託契約について

資料により契約書（案）が提示され、前年と同様であることを確認し、契約書（案）にての契約締結が可決承認された。

2 令和 8 年度脳卒中医療連携推進事業の委託契約について

資料により契約書（案）が提示され、契約金額が 1,000 円増額変更となった以外、前年と同様であることを確認し、契約書（案）にての契約締結が可決承認された。

3 公立福生病院 倫理審査委員会委員候補者の推薦について

資料により、標記依頼内容が説明され、進藤幸雄会長を推薦することを可決承認した。

会員通知

- 会報 5-6 月号
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）（西多摩医師会 H P 会員ページ、会員メニュー内（会員専用）に掲載）
- 学術講演会（5/25、5/27、6/2、6/10、6/17、7/17、7/24）
- 産業医研修会（西多摩医師会 7/26）
- ” （帝京大学医師会 7/18・19・20）
- 訃報（青梅市 吉野医院 院長 吉野 聡彦 先生）
- ” （福生市（医社）大聖病院 理事長 宮川和子先生 御尊父 宮川 昭二 様）
- 会員名簿掲載内容確認のお願い
- 医師会会員情報システム「MAMIS」によ

る退会手続きに関するお知らせ

- 令和 8 年診療報酬点数改定西多摩医師会講習会の「動画資料」公開についてお知らせ
- 令和 8 年「診療報酬点数改定に伴う参考書籍（資料）」配布についてのご案内
- 令和 8 年度第 1 期西多摩医師会諸会費請求書
- 2026 年度西多摩医師会定時社員総会（6/23）開催案内
- 西多摩医師会「納涼の夕べ」（7/8）開催案内
- 令和 8 年度西多摩医師会館「糖尿病教室」「個別栄養相談」（7 月～3 月）開催案内ポスター
- 令和 8 年度認知症サポート医養成研修の実施に係る受講者の推薦について

- 男性9価HPVワクチンの接種機会に関する現状共有と電子署名への協力依頼について
- 医療保険委員会より 情報提供
(薬剤処方に関しての注意喚起)
- 市立青梅総合医療センターより 令和8年度第1回外来感染対策向上加算地域連携合同カンファレンスの開催について(5/12)
- 〃 第22回市立青梅総合医療センター地域医療連携懇話会開催案内(7/15)
- 公立福生病院より 令和8年度第1回感染対策向上加算・地域連携合同カンファレンス開催案内(5/25)
- 公立阿伎留医療センターより 令和8年度第1回感染対策向上加算・地域連携合同カンファレンス開催案内(5/19)
- 〃 令和8年度第1回阿伎留医療・介護アカデミー(6/25)
- 西多摩保健所より 管内での麻しんの発生に伴う対策の強化について(情報提供及び協力依頼)
- 西多摩地域広域行政圏協議会より 令和8年度医療・介護関係者研修会(10/6)
- 「がん治療連携指導料」の施設基準届出に係る連携保険医療機関の新規追加及び届出内容の変更等について(令和8年7月1日算定)
- 東海大学附属八王子病院2026年度診療案内
- 国際モダンホスピタルショー2026
- 令和8年度第1回難病医療ネットワーク医療従事者向け研修の実施について
- 指定難病の診断基準及び重症度分類等の改正等について
- 新型インフルエンザ等対策講習会のオンデマンド配信について
- 令和7年度厚生労働省委託事業における作成物及び調査結果等の公開について(ACPの普及促進及び在宅医療提供体制の充実等)
- 麻しん(はしか)の発生について
- 日本医学会「第39回日本医学会公開フォーラム」ご案内の送付について
- 令和7年度医療機関等における医薬品安全性情報の入手・伝達・活用状況等に関する

- 調査結果報告書及び「望まれる方向」の公表について(周知依頼)
- 吸入ステロイド薬・pMDI製剤の供給不足に伴うドライパウダー製剤(DPI)使用のお願い
- 「医療広告ガイドライン」の改正及び「医療広告ガイドラインQ&A」、「医療広告規制におけるウェブサイト等の事例解説書」の改訂について
- 医薬品安定供給・流通確認システムの稼働開始について
- 東京都医師会会員向けアプリケーション作成に関するアンケートご協力をお願い
- 「こどもの予防接種ポータルサイト」に関する周知について
- 「保健所等におけるエムボックス検査のガイドライン」の周知について並びに「エムボックス診療の手引き 第4.0版」の周知について
- 保護者向け発達障害デジタルブックのリーフレットの配布について(依頼)
- オンラインカジノ等のギャンブル依存症患者向けフィルタリングサービスの周知について(依頼)
- 「事業主が職場における顧客等の言動に起因する問題に関して雇用管理上講ずべき措置等についての指針」の告示について
- 令和8年度版 死亡診断書(死体検案書)記入マニュアルについて
- 麻しん(はしか)の発生について
- 小児・AYA世代のがん患者向けの「小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」に関するリーフレットの周知・活用について
- 麻しん及び風しんの定期接種対象者に対する積極的な接種勧奨並びに麻しん及び風しんの任意接種に関する案内等について(依頼)
- HPVワクチンに関するリーフレットの改訂等について
- 東京JMAT研修会学習動画の公開(再通知)について
- 「とうきょう依存症ポータルサイト」の開設について
- 麻しん(はしか)の発生について

- 令和8年度東京都強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）の実施について
- 「2026年世界禁煙デーイベント」の開催について
- 「難病患者さんへの支援の御案内」の送付について
- 麻しん（はしか）の発生について
- 日本医師会生涯教育 on-line リニューアルに伴う日本医師会会員専用コンテンツへのアクセス方法について
- 東京都医療機関等における賃上げ・物価上昇に対する支援事業の実施について
- 疑義解釈資料の送付について（その4）
- 地域医療情報システム（JMAP）の改修について
- 令和8年度診療報酬改定に係る施設基準届出チェックリストのご案内について
- 疑義解釈資料の送付について（その3）
- 麻しん（はしか）患者の集団発生について
- 麻しん（はしか）患者の来訪について
- 明日から使える医療的ケア児の支援ガイド〜かかりつけ医・園医・校医のための知識と実践のために〜の開催について
- 「令和8年度診療報酬改定講習会」講演映像及び資料のホームページ掲載について
- 令和8年度の外来データ提出加算、充実管理加算等に係る説明会について
- 医療機関の人材の課題に関する産業雇用安定センターの活用について
- いわゆる「善きサマリア人法」について考える公開シンポジウム開催のご案内
- 令和8年岩手県大槌町の林野火災に伴う災害に係る介護報酬等の柔軟な取扱い（基準緩和等）について
- 令和8年岩手県大槌町の林野火災に伴う災害により被災した要介護高齢者等への対応および被災者に係る被保険者証の提示等について
- 日本 CBRNE 学会／NBCR 対策推進機構共同主催シンポジウム ー巨大地震に伴う複合災害に備えてー周知依頼について
- 令和8年岩手県大槌町の林野火災の被災者に関する既往歴等の提供について
- 令和8年岩手県大槌町の林野火災に伴う災害の被災者に係るマイナ保険証又は資格確

- 認書等の提示等について
- 「気づきで防ぐ消費者被害」ガイドの周知について
- 令和8年「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」の実施について
- 「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」及び「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」に関する Q&A（事例集）」の一部改正について
- 糖尿病普及啓発資料の周知・活用について
- 令和8年度診療報酬改定におけるベースアップ評価料に係る施設基準の届出について
- 公益財団法人日本医療機能評価機構医療事故情報収集等事業第84回報告書の公表について
- 麻しん（はしか）患者の集団発生について（第2報）
- 医療資材の調達状況等の把握に関するアンケートの協力について（依頼）
- 令和8年度におけるデータ提出加算（A245）及び外来データ提出加算等の取扱いについて
- 令和8年度診療報酬改定に係る施設基準届出チェックリストの一部訂正について
- 令和8年度診療報酬改定関連通知及び官報掲載事項の一部訂正について
- 「訪日外国人患者の受け入れを円滑に行うための入門ガイドブック」について
- 令和8年5月・6月のオンライン資格確認等システムのメンテナンスに伴う影響について（周知依頼）
- 「性犯罪・性暴力被害者支援のためのオンライン研修」について
- 麻しん（はしか）の発生について
- 令和8年度「日本医師会生涯教育講座」第1期（6月）の開催について
- 「令和8年度における外来データ提出加算等の取扱いについて」の一部訂正について
- 麻しん（はしか）患者の発生及び来訪について
- 疑義解釈資料の送付について（その5）
- 麻しん流行に伴うワクチン接種啓発および広報強化に関する要望について
- 「2026年世界禁煙デーイベント」の開催

- について（再周知）
- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に係る注意喚起について
 - 麻しんの感染拡大防止に向けた周知への御協力について
 - 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチンの出荷調整の解除について
 - 麻しん対策に関する各種資料の周知・活用（「保健所における麻しん対策・対応ガイドライン（第三版）」等）について
 - 麻しん（はしか）に関する動画の公開について
 - 医療事故情報収集等事業「医療安全情報 No.233」の提供について
 - 次期顔認証付きカードリーダーの発売開始について（周知依頼）
 - オンライン請求システムのバージョンアップに伴う審査結果関連データ等の Excel ファイルの拡張子変更及び周知について
 - 令和 8 年度【第 1 回】児童虐待対応研修の開催について（通知）
 - 東京都障害者情報コミュニケーション条例デジタルブックの周知について
 - 「オンライン請求システムのバージョンアップに伴う審査結果関連データ等の Excel ファイルの拡張子変更」に係る問い合わせ先の訂正について
 - 令和 8 年度【第 2 回】児童虐待対応研修の開催について（通知）
 - 麻しん患者の接触者へのワクチン緊急接種事業について
 - コロナ後遺症オンライン研修会の開催について
 - アンケート調査へのご協力をお願いについて
 - 医療費助成の受給者証及び診察券のマイナンバーカードへの一体化に関する補助金の令和 8 年度の申請受付の開始について
 - 「会員の為の日医 I T フェア」についてのご案内
 - 令和 8 年 8 月 1 日以降における資格確認書に関する周知広報について（依頼）
 - 「電子的診療情報連携体制整備加算」の届出について
 - 病院の賃上げ・物価上昇に対する支援事業の申請受付期間について
 - 中東情勢を踏まえた医療用手袋の備蓄放出について
 - 令和 8 年度「世界禁煙デー」及び「禁煙週間」の協力依頼について
 - 「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」の宣言を受けたエボラ出血熱に係る協力依頼について
 - 医療費助成のオンライン資格確認ができなかった時の代替措置について
 - 令和 8 年度（第 60 回）臨床検査精度管理調査の実施について
 - サイバーセキュリティセミナー（体験型）のご案内について（依頼）
 - 疑義解釈資料の送付について（その 6）
 - 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の取組進捗ガイドの公表について
 - 麻しん（はしか）の発生について
 - 令和 8 年度第 1 回医療機関の働き方改革セミナーの実施について
 - 令和 9 年度東京都地域医療支援ドクター募集要項の制定及び募集実施について
 - 東京都医師会会員向けアプリケーション作成に関するアンケートご協力をお願い（再通知）
 - 予防接種リサーチセンター発行冊子「親子で学ぶ予防接種」の配布申込について
 - 経済産業省による令和 7 年度補正予算省エネ・非化石転換補助金の 2 次公募期間等について（情報提供）
 - 電子的診療情報連携体制整備加算における地域医療情報連携ネットワークに関連する施設基準について
 - 療養の給付と直接関係ないサービス等の取扱いに関する疑義解釈資料の送付について
 - 令和 8 年度東京都医療機関物価高騰緊急対策支援金の概要について（通知）
 - 医療事故情報収集等事業「医療安全情報 No.234」の提供について
 - 「令和 8 年度 生活習慣病講習会」の開催について
 - 令和 8 年経済センサスー活動調査かたり調査等に係る注意喚起の協力について（依頼）
 - 経済産業省デジタル化・AI 導入補助金 2026 について（情報提供）
 - 疑義解釈資料の送付について（その 7）

- 東京都健康推進プラン21（第三次）」普及啓発パンフレット『健康づくりスタートブック』の送付について
- 麻しん（はしか）患者の来訪について
- 令和8年度第1回主治医研修事業（介護保険制度・障害者総合支援法）研修会の開催について
- 令和8年度「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の実施及び国連支援募金運動に対する協力について（依頼）
- 中東情勢を踏まえた調剤された薬剤に使用する容器又は被包をはじめとした医療用物資等の安定供給に関する協力依頼

- 香りへの配慮に関する啓発ポスターの再周知について
- 令和8年度インフルエンザHAワクチン製造株の決定について
- 令和8年度「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」標語募集への協力依頼について
- 国民年金第1号被保険者の育児期間に係る国民年金保険料免除制度の周知について
- 令和8年度医療DXに係る出張講習会の開催について
- ・医療施設施設整備事業等に係る令和9年度事業計画の調査について

医 師 会 の 動 き

	令和8年6月18日現在		
医療機関数	188	病 院	27
		医院・診療所	161
会 員 数	482	正会員	202
		準会員	280

会 議

5月12日	定例理事会
14日	第1回西多摩地域糖尿病医療連携検討会
14日	在宅難病訪問診療（青梅市）
20日	経理部会・監査会
20日	在宅医療安心サポート事業会議
26日	定例理事会
6月9日	定例理事会
10日	第1回西多摩地域脳卒中医療連携検討会（急性期班）
11日	在宅難病訪問診療（青梅市）
16日	第1回西多摩地域脳卒中医療連携検討会（包括ケア班）
17日	在宅医療安心サポート事業会議
22日	広報部会（会報編集）
23日	西多摩医師会定時社員総会

講演会・その他

5月8日	医療保険委員会
14日	法律相談
20日	学術講演会（Web、会場聴講） 『心腎連関から考える高血圧マネジメント』

【講演Ⅰ】

座長：市立青梅総合医療センター
循環器内科 部長 小野 裕一 先生
演題：「当院における高血圧患者の治療」

演者：公立阿伎留医療センター
循環器内科 科長 澤田 朋和 先生

【特別講演】

座長：市立青梅総合医療センター
腎臓内科 副部長 河本 亮介 先生
演題：「なぜARNIなのか？～塩分排出の機序から見た理想的な降圧治療の一手～」

演者：東京科学大学 血液浄化療法部 講師 森 崇寧 先生

21日 学術講演会（Web、会場聴講）
『第21回青梅CKD勉強会』

【座長】青梅市医師会長 新町クリニック 院長 神應 知道 先生

【講演Ⅰ】

演題：「青梅市 CKDの現状と取り組みについて」

演者：青梅市役所 健康福祉部 健康課特定健診係 小沼 彩子 氏

【講演Ⅱ】

演題：「CKDおよび合併症対策のポイントを再考する」

演者：虎の門病院 腎センター内科 部長 和田 健彦 先生

25日 学術講演会（Web、会場聴講）

- 『西多摩地域医療連携セミナー～心腎イベントを抑えるためにMRAの役割と最新知見～』
- 【講演Ⅰ】
- 【座長】市立青梅総合医療センター循環器内科 部長 小野 裕一 先生
- 演題：「心不全地域連携におけるフィネレノンの立ち位置」
- 演者：野本医院 院長 野本 英嗣 先生
- 【講演Ⅱ】
- 【座長】柳田医院 院長 柳田 和弘 先生
- 演題：「2型糖尿病を合併する慢性腎臓病患者への対策を考える」
- 演者：福島県立医科大学 腎臓高血圧内科学講座 教授/会津坂下腎栄養アカデミー 教授 細島 康弘 先生
- 27日 学術講演会 (Web、会場聴講)
- 『心不全の地域連携を考える会』
- 【Lecture1】
- 【座長】南 明宏 先生 (高木病院 院長)
- 演題：「心不全パンデミック時代にどう立ち向かうかー地域で支えるこれからの心不全医療ー」
- 演者：栗原 顕 先生 (市立青梅総合医療センター 循環器内科 部長)
- 【Lecture2】
- 【座長】小野 裕一 先生 (市立青梅総合医療センター 循環器内科 部長)
- 演題：「慢性心不全治療の最適化を目指した当院での取り組みーSGLT2阻害薬と高カリウム血症管理を含めた処方戦略ー」
- 演者：松田 祐治 先生 (東京科学大学 循環器内科 助教)
- 6月2日 学術講演会 (Web、会場聴講)
- 『第38回 西多摩呼吸器懇話会』
- 【座長】市立青梅総合医療センター呼吸器内科 部長 大場 岳彦 先生
- 【症例発表】
- 演題：「抗菌薬治療への反応が不良であった肺炎の一例」
- 演者：市立青梅総合医療センター呼吸器内科 大井田 毅 先生
- 【特別講演】
- 演題：「重症喘息治療における最新の話」
- 演者：医療法人社団アズマ会 佐野虎ノ門クリニック 理事長 鈴川 真穂 先生
- 8日 医療保険委員会
- 10日 学術講演会 (Web、会場聴講)
- 『CKD重症化予防を考える会』
- 【Lecture1】
- 【座長】松川 加代子 先生 (市立青梅総合医療センター 腎臓内科 部長)
- 演題：「症例から見るCKD地域連携～実臨床から仕組みへ～」
- 演者：河本 亮介 先生 (市立青梅総合医療センター 腎臓内科 副部長)
- 【Lecture2】
- 【座長】松川 加代子 先生 (市立青梅総合医療センター 腎臓内科 部長)
- 演題：「当院におけるCKD治療への取り組み～医療連携の重要性を中心に～」
- 演者：内田 貴大 先生 (東京医科大学八王子医療センター 腎臓内科 講師)
- 17日 学術講演会 (Web、会場聴講)
- 『第57回青梅心電図勉強会』
- 【座長】梅郷診療所 院長 江本 浩 先生
- 演題：「心不全患者に潜む栄養障害と薬物治療」
- 演者：市立青梅総合医療センター循環器内科 大沼 隼一 先生
- 役員出張
- 5月12日 「フレイルサポート医地域連携支援事業」地区医師会担当理事連絡会
- 15日 地区医師会長連絡協議会
- 22日 全国医師会産業医部会連絡協議会
- 26日 市立青梅総合医療センター令和8年度第1回病院運営委員会
- 6月12日 西多摩地区救急業務連絡協議会
- 令和8年度定期総会・懇親会
- 17日 「在宅療養体制支援医療機関緊急

- 整備事業」および「区市町村在宅療養推進事業」地区医師会担当理事連絡会
- 19日 令和8年度「区市町村在宅療養推進事業」及び「在宅療養体制支援医療機関緊急整備事業」の実施に関する説明会
- 19日 地区医師会長連絡協議会
- 24日 東京都在宅医療推進強化事業（24時間診療体制推進事業等）に関するヒアリング
- 25日 東京都医師会 第306回（定時）代議員会

【入会会員】（正会員）

氏 名 長坂 憲治
勤務先 市立青梅総合医療センター
出身校大学 東京医科歯科大学
平成 8 年 3 月卒

氏 名 前田 耕太郎
勤務先 (医社) 向日葵清心会
いずみクリニック
出身校大学 慶応義塾大学
昭和 54 年 3 月卒

【退会会員】（正会員）

氏 名 野口 修
勤務先 市立青梅総合医療センター

氏 名 馬場 眞澄
勤務先 (医社) 真胤会 馬場内科クリニック

氏 名 高橋 裕子
勤務先 (医財) 良心会 青梅成木台病院

氏 名 横内 正利
勤務先 (医社) 向日葵清心会
いずみクリニック

氏 名 木島 啓
勤務先 (医社) 三清会
青梅かすみ台クリニック

氏 名 吉野 聡彦（死亡）
勤務先 吉野医院

【入会会員】（準会員）

氏 名 丸野 貴久
勤務先 (医社) 成蹊会 丸野医院
出身校大学 神戸大学 平成 14 年 3 月卒

氏 名 古田 誠
勤務先 (医社) 豊信会 草花クリニック
出身校大学 佐賀医科大学 平成 7 年 3 月卒

氏 名 楊 天一
勤務先 (医社) 純正会 青梅東部病院
出身校大学 福井大学 平成 10 年 3 月卒

氏 名 小林 崇久
勤務先 (医社) 東青梅整形外科医院
出身校大学 筑波大学 令和 2 年 3 月卒

氏 名 公文 章彦
勤務先 (医社) みやびの会
あきる野総合クリニック
出身校大学 東海大学 平成 24 年 3 月卒

氏 名 富加津 雅巳
勤務先 (医社) みやびの会
あきる野総合クリニック
出身校大学 北里大学 平成 6 年 3 月卒

氏 名 藤井 隆史郎
勤務先 (医社) みやびの会
あきる野総合クリニック
出身校大学 日本大学 平成 28 年 3 月卒

氏 名 馬場 眞澄
勤務先 (医社) 真胤会 馬場内科クリニック
出身校大学 日本大学 昭和 47 年 3 月卒

氏 名 熊谷 隆志
勤務先 (医社) 三秀会 羽村三慶病院
出身校大学 東京医科歯科大学
平成 2 年 3 月卒

氏 名 浅田 峻輔
勤務先 (医社) 仁成会 高木病院
出身校大学 日本大学 令和 4 年 3 月卒

氏 名 板倉 嘉恵
勤務先 公立福生病院
出身校大学 福島県立医科大学
平成 12 年 3 月卒

氏 名 秦 佐智雄
勤務先 公立福生病院
出身校大学 順天堂大学 平成 16 年 3 月卒

氏 名 石坂 欣大
勤務先 公立福生病院
出身校大学 杏林大学 平成 27 年 3 月卒

氏 名 鈴木 貴大
勤務先 公立福生病院
出身校大学 獨協医科大学 平成31年3月卒

氏 名 山本 啓喜
勤務先 公立福生病院
出身校大学 筑波大学 令和 8 年 3 月卒

氏 名 善 裕賀音
勤務先 公立福生病院
出身校大学 北里大学 令和 8 年 3 月卒

氏 名 柴田 康博
勤務先 公立福生病院
出身校大学 東京大学 平成 18 年 3 月卒

氏 名 松永 洋一
勤務先 公立福生病院
出身校大学 金沢大学 昭和 63 年 3 月卒

氏 名 西村 直輝
勤務先 公立福生病院
出身校大学 慶応義塾大学 令和 5 年 3 月卒

【退会会員】（準会員）

氏 名 渡部 啓太
勤務先 市立青梅総合医療センター

氏 名 竹迫 弥生
勤務先 公立阿伎留医療センター

氏 名 桑原 直孝
勤務先 奥多摩町国民健康保険 奥多摩病院

氏 名 小室 勝利
勤務先 (医社) 秀仁会 櫻井病院

氏 名 佐藤 貞之
勤務先 (医社) 秀仁会 櫻井病院

氏 名 松原 直美
勤務先 (医社) 新町クリニック

氏 名 吉野 直之
勤務先 吉野医院

氏 名 長坂 憲治
勤務先 市立青梅総合医療センター

氏 名 田中 修
勤務先 市立青梅総合医療センター

氏 名 神田 祥子
勤務先 市立青梅総合医療センター

氏 名 高田 義章
勤務先 市立青梅総合医療センター

氏 名 高野 省吾
勤務先 市立青梅総合医療センター

氏 名 原 義人
勤務先 市立青梅総合医療センター

氏 名 白井 俊純
勤務先 市立青梅総合医療センター

氏 名 森 浩士
勤務先 市立青梅総合医療センター

氏 名 熊谷 隆志
勤務先 市立青梅総合医療センター

氏 名 小泉 雄生
勤務先 (医社) 仁成会 高木病院

氏 名 山崎 裕哉
勤務先 公立福生病院

氏 名 唐澤 大心
勤務先 公立福生病院

氏 名 齊藤 翔
勤務先 公立福生病院

氏 名 原口 安佐美
勤務先 公立福生病院

【管理者変更】

(医社) 向日葵清心会 いずみクリニック
(新) 前田 耕太郎
(旧) 横内 正利

【法人代表者・管理者変更】

(医社) 南山会 山川医院
(新) 富田 謙吾
(旧) 山川 淳二

(医財) 良心会 青梅成木台病院
(新) 小林 暉佳
(旧) 高橋 裕子

お 知 ら せ

保険請求書類提出締切日

令和8年8月(7月診療分) **8月6日(木)** 正午迄
令和8年9月(8月診療分) **9月8日(火)** 正午迄
(締切日以前の提出も可能です)

法 律 相 談

西多摩医師会顧問弁護士 堀 克巳先生による法律相談を
毎月**第2木曜日 午後2時**より実施いたします。

お気軽にご相談ください。

◎相 談 日 **7月9日(木)**
9月10日(木)

◎場 所 西多摩医師会館
◎内 容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・
刑事に関するどのようなものでも結構です。
◎相 談 料 無料(但し相談を超える場合は別途)
◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
(注) 先生の都合で相談日を変更することもあります。

訃 報

(正会員) 青梅市 (医社) 三清会 小作クリニック

院長 **三井 久男 先生** (享年 81 歳)

去る令和8年4月5日 ご逝去されました。
謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。



訃 報

(正会員) 青梅市 吉野医院

院長 **吉野 聴彦 先生** (享年 59 歳)

去る令和8年5月16日 ご逝去されました。
謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。



訃 報

福生市 (医社) 大聖病院
理事長 宮川 和子 先生 御尊父様

宮川 昭二 様 (享年99歳)

去る令和8年5月24日 ご逝去されました。
謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。



表紙のことば



『鎌倉長谷寺の紫陽花』

数年前、梅雨の長谷寺を訪れた際の一枚です。曇天に鮮やかなブルーがとても綺麗でした。まるで蛍光色のように浮かんで見えました。

永仁醫院 古川朋靖

あ と が き

2年前に会報の編集委員を引き受けた時には自分で原稿を書くのは会報のあとがきくらいでそれ以外は編集の作業をするのだらうと思っていましたがあてが外れました。あとがき以外にも書く順番が回ってくるものがあると知ったけれど後の祭り。そして2年の任期が終わるタイミングで2回目のあとがきが回ってきました。

2年と言えば診療報酬の改定も2年毎。以前は3月に詳細が発表されて4月改定だったのでばたばたしていたけれど前回から6月改定になったので少しは余裕があるかと思っていたけれど、私の場合は結局ばたばたするのは同じでした。しかも薬価の改定は4月のままなので改訂は6月だと思っていたて4月に処方箋の発行でエラーが出るのが何回もありました。これまで先発品の処方を希望していた患者さんに同様の処方をするところ

ラーが出るものがあつたのです。4月に薬価の改定があつて先発品と後発品の薬価が同じになったものがあつたのでその先発品が選定療養の対象ではなくなっていたためです。

ベースアップ評価料もややこしいです。従業員の給与をどう決めるかを外から言われるのはどうかという気持ちもあつたので最初は施設基準の届け出をしていませんでした。それでもこの届け出をしないと医療機関の経営に余裕があるとみなされて次の改訂は厳しくなるかもしれないと言われるとその心配ももっともだと思います。1年前に届け出をしました。それで済んだと思っていたら今回の改定で改めて届け出をしないといけないということではたばた届け出をしました。そもそも診療報酬は診療行為を評価して決まるものです。ベースアップは診療行為でないのになぜそれを評価するのか不思議といえば不思議です。初診料や再診料の評価を上げることで医療機関の経営の改善を目指す方が診療報酬の考え方として分かりやすいのではないのでしょうか。いつの間にか施設基準の届け出をしないと算定できない項目が増えていて、しかも狭義の施設だけでなく処方内容や地域連携といったことまで施設基準に含まれることもあり、条件が厳しいものも多いのでついていくのが大変です。

愚痴ばかりのあとがきになってしまいました。

中野クリニック 中野和広

一般社団法人 西多摩医師会

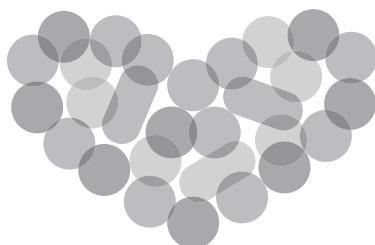
令和8年7月1日発行

会長 進藤幸雄 〒198-0042 東京都青梅市東青梅1-167-12 TEL 0428 (23) 2171・FAX 0428 (24) 1615

会報編集委員会

三ツ汐 洋 菊池 孝 奥村 充 馬場 一徳 小高 哲郎
近藤 之暢 古川 朋靖 神應 知道 中野 和広 古畑 謙

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428 (22) 3047・FAX 0428 (22) 9993



AISEI

誰もがすこやかに、笑顔でいられる毎日。

全国400店舗以上の調剤薬局ネットワークと
業界トップクラスの医療モール開発実績



アイセイ薬局

生命の輝きをみつめ

“いつの時代も、地域医療とともに”

当社は、1966年の創業以来「正確・迅速」を目標に掲げ、地域に根ざした検査所として歩んできました。

急速に進歩している医療に貢献すべく社員一人ひとり更なる研鑽に励み、臨床検査を通じて社会に奉仕するという信念のもと、治療医学は元より、人々の本来の

で目的ある健康維持のための予防医学に傾注し、地域に根ざした検査所として努力しております。



登録衛生検査所



株式会社武蔵臨床検査所

本 社：〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8

TEL:04-2964-2621/FAX:04-2964-2621

西東京営業所：〒202-0001 東京都西東京市ひばりが丘1-3-12

TEL:042-439-3663/FAX:042-439-3664

URL： <https://www.e-musashi.co.jp>

